333 East 47th Street
New York, NY 10017
japansociety.org

FOR IMMEDIATE RELEASE

<プレス・リリース>
配信日：2022 年 4 月 11 日
プレス担当：
マリカ絵美 (EMarica@japansociety.org)
アリソン・ロッドマン (ARodman@japansociety.org)

ジャパン・ソサエティー（JS）ギャラリー

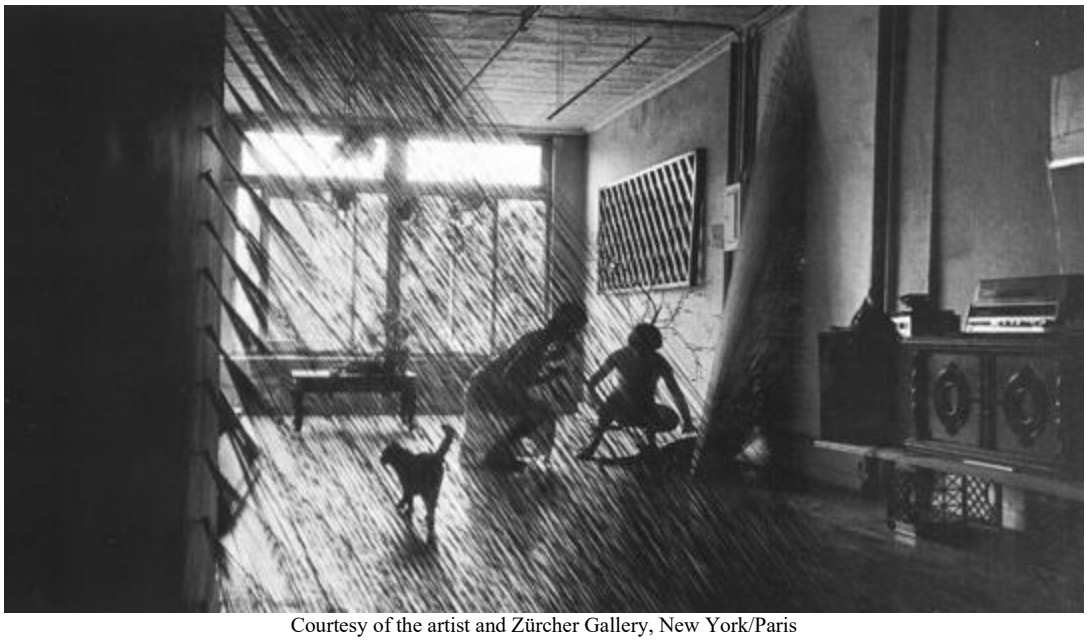
展覧会

「宮本和子: 挑む線」

Kazuko Miyamoto: To perform a line

展示期間：**2022 年 4 月 29 日 (金）～2022 年 7 月 10 日（日）**

プレスプレビュー：2022 年 4 月 27 日（水）午前 10 時 00 分~午後 4 時 00 分



Courtesy of the artist and Zürcher Gallery, New York/Paris

リスティング・インフォメーション

会場：	ジャパン・ソサエティー（JS）ギャラリー 333 East 47th Street (Between First and Second Avenues) New York, NY 10017
展示期間：	2022 年 4 月 29 日 (金）～2022 年 7 月 10 日（日）
開館時間：	木曜日～日曜日：正午～午後 6 時
JS 会員限定開館時間：	木曜日、金曜日：正午～午後 2 時
入場料：	一般 12 ドル、シニア・学生 10 ドル JS 会員・16 歳以下・障がい者および付添者　無料
チケット購入：	ボックスオフィス　212－715－1258

ご来館の皆様の安全と安心のためガイドラインをこちらよりご確認お願いいたします。

ジャパン・ソサエティー（JS）ギャラリーは、宮本和子（1942）の美術機関では初めてとなる個展**「宮本和子: 挑む線」**を開催いたします。本展は、ミニマリズム運動に独自の表現法で挑み、貢献をした 1960 年代後半の絵画やドローイング、1970 年代の空間的構造体の作品、そして 1987 年から 2000 年代にかけてのパフォーマンスによる概念的実験や「kimono」シリーズといった集大成となる展覧会になります。今回展示される作品の多くは、初公開となり、この才能あふれるアーティストのキャリアを検証する重要な機会となります。

東京に生まれた宮本は、20 代前半の 1964 年頃からマンハッタンのローワー・イースト・サイドを拠点とし制作を続けてきました。1968 年、隣人だったアーティスト、ソル・ルウィットと出会い、アシスタントとして立方体(open cube)の構造の制作に携わり、1971 年のグッゲンハイム美術館での展示など、多くのウォール・ドローイングを手がけました。ルウィットのアシスタントを務める傍ら、宮本はミニマリズムの表現手段を研究し、独自の表現方法を見いだし始めました。本展で展示される初期の作品の数点は、60 年代後半から 70 年代初頭にかけてのキャンバスや紙を使用した作品で、スプレー塗料などの素材を用いることで、当時、主流だったミニマリズムの作品にはない、有機的な不正確さの要素を作品に取り入れています。

宮本は、1970 年代初めから糸を使った作品を制作し始めました。数本の糸をスタジオの壁に釘で固定することからスタートした平面的な作品は、次第に複雑で空間的な性質を持つようにな

りました。このような立体的作品は、制作空間との対話で生まれる本人の直感的なプロセスを経て作り上げられていきました。ミニマリズムの厳格な幾何学へのアプローチとは対照的に、宮本の作品は不確実性、偶然性、はかなさを包含しています。ミニマリズムの表現法を模索し続けた宮本が初めて手掛けた壁の平面的作品《無題》（1973 年）やその後 3 次元的な構造へと発展した際の初めての作品である《Male》(1974)などを JS ギャラリー内にて展示、その他にも、制作以来、初公開となる歴史的な作品を再現します。本展は、男性中心に発展を遂げたミニマリズム運動に風穴を開け続けながら同運動に貢献をしてきた宮本の軌跡をたどる貴重な機会となります。そして、ルウィット（雇用主であるだけでなく、大切な友人であり、支援者であり、宮本の作品の熱心なコレクターでもあった）の影響を超える、宮本自身による確固たる表現が本展で明らかにされています。美術評論家のローレンス・アロウェイ氏は 1977 年、二人の関係について、「宮本の作品は単純な模倣ではなかった。それどころか、ルウィットが実現できなかった、ドローイングに内在する三次元の可能性を、執拗なまでの繊細さで追求した」と記しています。

本展は、ニューヨークにあるランスマイヤー社の展示デザインとなり、宮本の実際の制作スタジオ空間を尊重し、想起させるように作られています。ギャラリー・スペースの打放しコンクリート床を露出させ、硬材のプラットフォームを挿入し、そこに糸を使った作品を直接固定することで、宮本自身の身体と制作物の間の物理的なつながりを表しています。宮本は、エイドリアン・パイパー、ルイーズ・ブルジョワ、アナ・メンディエタなど、多くのアーティストとのパフォーマンスをコラボレーションをすることで、「コミュニティー」の重要性をさらに感じてきました。

また宮本は、自身のキャリアを通して、ニューヨークでアートを制作する女性であること、そして移民であることの意味を様々に探求してきたといえます。スタジオでの制作活動だけでなく、コミュニティーにおけるコネクター、キュレーター、ギャラリスト、そして過小評価されたアーティストの支援者等、多くの重要な役割を担ってきました。

1972 年、ソーホーで開催された「13 人の女性アーティスト(13 Women Artists)」展に参加し、同年末にウォースター通り 97 番地にオープンしたニューヨーク初の女性アーティスト集団、A.I.R. ギャラリーを開きました。A.I.R.の初期メンバーとして、宮本は 5 つの個展を開催し、2 つのグループ展のキュレーションを担当しました。その後、ダウンタウンの前衛アート

において重要な存在となった宮本は、1986 年にローワー・イーストサイドのリビングトン・ストリート 128 番地に自身のギャラリー、「onetwentyeigh ギャラリー」オープンしました。このスペースで、宮本はコミュニティー形成に力を入れ、他ではあまり注目されていなかった移民や若い新進のアーティスト作品にスポットライトを当てました。ジャン＝ミシェル・バスキア、デヴィッド・ハモンズ、ナンシー・スペロ、ピョートル・ウクランスキーなど、今や著名なアーティストたちの作品を最初に展示しました。「onetwentyeight ギャラリー」は現在も営業しており、ローワーイーストサイドで最も長く営業しているギャラリーです。宮本は 2000 年代初頭まで、スタジオでの制作活動やキュレーターとしての活動を精力的に行っていました。

JS ギャラリー部キュレーター、ティファニー・ランバーがキュレーションを務める本展は、1971 年の設立以来、アート界をリードし続けてきた JS の歴史的な展覧会に加わることになります。JS ではこれまで、マイノリティー／過小評価されているアーティストのハイライト、特に女性の育成に力を入れ、久保田成子氏、草間彌生氏、オノ・ヨーコ氏といったアーティストを、キャリアの初期段階から支援してきました。**「宮本和子: 挑む線」**は、JS の歴史を踏まえ、2022 年以降の展覧会、関連プログラムへ繋げる展覧会となります。

【宮本和子】

Kazuko Miyamoto with string constructions. Courtesy of the artist and Zürcher Gallery, New York/Paris

1942 年東京に生まれ、現代美術研究所で美術を学ぶ。1964 年にニューヨークに移住し、1968 年までアート・スチューデンツ・リーグに在籍。同年、ローワー・イーストサイドに最初のスタジオを構え、以後、この地区を自宅としている。同じビル（ヘスターストリート 117 番地）に住んでいたソル・ルウィットとは、火災避難訓練中に運命的に出会い、1971 年のルウィットのグッゲンハイム美術館のウォールドローイングなど、ルウィットの主要作品の制作に協力す

るようになる。1972 年には、ニューヨーク初の非営利の女性アーティスト集団、A.I.R.ギャラリーの初期メンバーとなり、1986 年リビングトンストリート 128 番地に自身のギャラリー「onetwentyeight ギャラリー」を設立し、現在もローワー・イーストサイドで最も長く運営されているギャラリーとして知られている。宮本の作品は、メトロポリタン美術館（ニューヨーク）、ニューヨーク近代美術館（ニューヨーク）、プリンストン大学美術館（プリンストン）、東京国立近代美術館（東京）、京都国立近代美術館（京都）、スミソニアン・アメリカ美術館（ワシントン DC）、イェール大学アートギャラリー（ニューヘブン）、ダイムラーコンテンポラリー（ベルリン）などに所蔵されている。

【レオン・ランスマイヤー】

Portrait by Thomas Slack

ニューヨークを拠点とするデザイン事務所、ランスマイヤー社の創設者。ロードアイランド・スクール・オブ・デザインを卒業した後、ランスマイヤーの作品は世界中で評価され、サンフランシスコ近代美術館やコーニングガラス美術館のパーマネントコレクションとして収蔵されている。クライアントは、2016/、HAY、ハーマンミラー、ジャパンクリエイティブ、マハラム、マティアッツィ、SPACE10 など。東京を拠点とするコーヒー製品会社「ENTO」の創立メンバー。
ヘルシンキのアールト大学、カリフォルニア美術大学、プラット・インスティテュートで講演を行い、クランブルック・アカデミー・オブ・アートで複数のデザインワークショップを指導。また、ロードアイランド・スクール・オブ・デザインとパーソンズの客員評論家として継続的に活動している。2012 年には、グラハム財団から研究助成を受け、工業デザインとロボット工学の発展的な関係を研究している。

ランスマイヤーのデザインは、クーパーヒューイット・スミソニアン・デザインミュージアム（ニューヨーク）、フリードマン・ベンダ（ニューヨーク）、プラスデザインギャラリー（ミラノ・イタリア）、スイスインスティテュート（ニューヨーク）、サンフランシスコ近代美術館（カリフォルニア）で展示されている。2019 年に Phaidon Press からリリースされた、ハーマンミラー社の年代記である「A Way of Living」の編集者でもある。デザイン、アート、建築に関する著作は、『Apartamento』、『Disegno』、『PIN-UP』に掲載されている。

＊＊＊

＊「宮本和子: 挑む線」展は、以下の財団・基金、及び個人より多大なご支援・協賛をいただいております。

Kazuko Miyamoto: To perform a line is supported, in part, by public funds from the New York City Department of Cultural Affairs in partnership with the City Council.

Japan Society programs are made possible by leadership support from Shiseido Americas and The Ford Foundation. Exhibitions and Arts & Culture Lecture Programs at Japan Society are made possible, in part, by the Lila Wallace-Reader's Digest Endowment Fund; the Mary Griggs Burke Endowment Fund established by the Mary Livingston Griggs and Mary Griggs Burke Foundation; The Masako Mera and Koichi Mera, PhD Fund for Education and the Arts; Masako H. Shinn; Peggy and Dick Danziger; Raphael and Jane Bernstein; Friends of the Gallery; and an anonymous donor. Support for Arts & Culture Lecture Programs is provided, in part, by the Sandy Heck Lecture Fund. Transportation assistance is provided by Japan Airlines, the exclusive Japanese airline sponsor for Japan Society gallery exhibitions.

＊＊＊

プレスプレビュー・取材申し込み

プレスプレビュー・取材をご希望の方は、プレス担当：マリカ/ロッドマンまで E メールで (EMarica@japansociety.org / ARodman@japansociety.org)　お申し込み下さい。

プレスプレビュー日時:4 月 27 日㈬午前 10 時 00 分~午後 4 時 00 分
入館の際にはマスクの着用、ワクチン接種証明書と写真付き証明書のご提示をお願いしております。

＊＊＊

JS ギャラリーについて

当ギャラリーは、1971 年の設立以来、日本の芸術と文化を世界に向けて発信し続けている米国でも有数の施設です。当ギャラリーは、画期的な展覧会や関連プログラムを通じて、世界の芸術遺産と言える日本文化に対する幅広い理解と評価を深め、日本がアジア、米国、ラテンアメリカ、ヨーロッパと共有する芸術的な相互関係を探り、古典から現代までの多様性に富む日本の美術を紹介しています。

ＪＳについて

JS は、日本の芸術、文化、ビジネス、社会をニューヨーク及び世界の人々とつなぐ全米随一の規模を誇る日米交流団体であり、芸術と文化、公共政策、ビジネス、サステナビリティ、教育における革新的なプログラムを通じて、ニューヨーク市歴史的保存建築に指定されている JS 本部ビルからだけでなく、オンライン形式でも発信しています。1907 年以来、JS では「きずな（絆）」の考えのもとに、革新的な次世代クリエーターの支援、日米相互理解の促進、日本の多様性を深く理解しようと願う世界の人々にとって信頼できる案内役となること、そして日米間の相互理解の促進と絆を深めることを目指しています。拠点とするニューヨーク市でのつながりを一層強化することに加え、米国内外での新たな架け橋の構築にも取り組んでいます。詳細は www.japansociety.org　をご覧ください。

JS は今年、ニューヨークのランドマークである本館設立 50 周年の記念して新しいロゴマークを導入いたしました。JS が文化や人種、時を超えてつながりを作っていく基盤となることを願い、「JS」の文字の重なりと線と形の連結を用いて、絆というコンセプトを打ち出しています。

公式 SNS アカウント：

Facebook： facebook.com/japansociety
Instagram： @japansociety and #japansociety
Twitter： @japansociety （英語）／　@js_desu
その他、詳しい情報は弊会ウェブサイト http://www.japansociety.org をご参照ください。

住所　333 East 47th Street (1Avenue と 2 Avenue 間), New York, NY 10017
最寄駅は地下鉄、4/5/6 番ライン、7 番ラインのグランドセントラル駅、あるいは E か M ラインのレキシントン街・53 丁目駅。代表電話 212-832-1155 /　ウェブサイト
www.japansociety.org

###